

2023年度 協力事業者懇談会 2024/2/26(月) ~横浜市青少年育成センター第2研修室~

「生活困窮者自立支援制度と横浜市就労準備支援事業」についての説明、
「就労準備支援事業を利用するにあたって期待していることや望むこと」のお話、
協力事業所より事例報告のあと、グループワークをおこないました。

2019年に開催して以来(2020年は協力事業者の皆さんにアンケートを依頼しました)、コロナ禍で開催を見合わせていた協力事業者懇談会を開催しました。

横浜市健康福祉局より2名、神奈川区生活支援課就労支援専門員1名、協力事業者10名、協会理事・スタッフ14名が参加し、3年ぶりに顔合わせの場が持てました。

まず、横浜市健康福祉局生活支援課の鈴木さんから「生活困窮者自立支援制度と横浜市就労準備支援事業」について説明していただきました。生活困窮者自立支援制度は困窮者およびそのおそれのある人を対象にしています。「おそれがある」、将来誰もそのおそれがないとは言えません。誰もが利用できる制度であり、一人一人の状況にあわせて支援していく制度です。生活に困っている相談者に寄り添った支援をするための様々なメニューがあり、その一つが就労準備支援事業です。

次に、神奈川区生活支援課の藤田さんから「就労準備支援事業を利用するにあたって期待していることや望むこと」をお話しいただきました。不眠症で昼夜逆転生活の20代の方は、初めの頃はつらいと泣き出すこともあったけれど、葛藤を抱えながらも、実習先からの「ありがとう」「お疲れ様」との声かけ、実習で得る奨励金が励みになり続けることができ、今は病院の受付で働いているとのこと。不眠、鬱で自信がなく、緊張で実習に行けなかった男性は、2度目の実習で週1回職場の人と協力して作業することで、声掛けをする楽しさ、失敗してもいいと知り、現在ではフルタイムで働くことができている。不安を多く抱えている人を社会に送り出す難しさはあるが、準備事業で生活リズムを改善し、一歩踏み出して社会とのつながりを持ってほしいと思っています。

す。対人の苦手な実習生も、声をかけられることで苦手意識が弱まり、外に出る楽しみ、家以外にも行ける場所ができ、返事ができないからどう返事してよいか、自分で考えて変わる、自信がつくようになるから、事業所の皆さん実習生にたくさん声をかけてください。事業所の丁寧な対応に日々感謝していると言葉がありました。

そのあと、リトルファーム HOMMOKU もくりの今関さん、労働者協同組合ワーカーズ・コレクティブ・キャリアー港南ランチの吉川さんから事例報告を受けて、グループワークを行いました。横浜市からの3人を含め、新たな事業所(ケアプラザなど)、経験ある事業所、協会メンバーと活発に意見交換がなされました。今後も懇談会の場を大切に企画していきたいと改めて感じています。

<アンケートから>

- ・実際の事例や他の事業者の話聞いてよかった。
- ・参考になった。
- ・事業の概要、区の担当者がどのように関わり実習生を支援しているかわかりよかった。
- ・実習生がどう変化していくか一緒に感じられる事業であり、生活を支援できると感じた。
- ・声かけの大切さを改めて感じた。声かけが自信につながること。(よしだみさこ)

